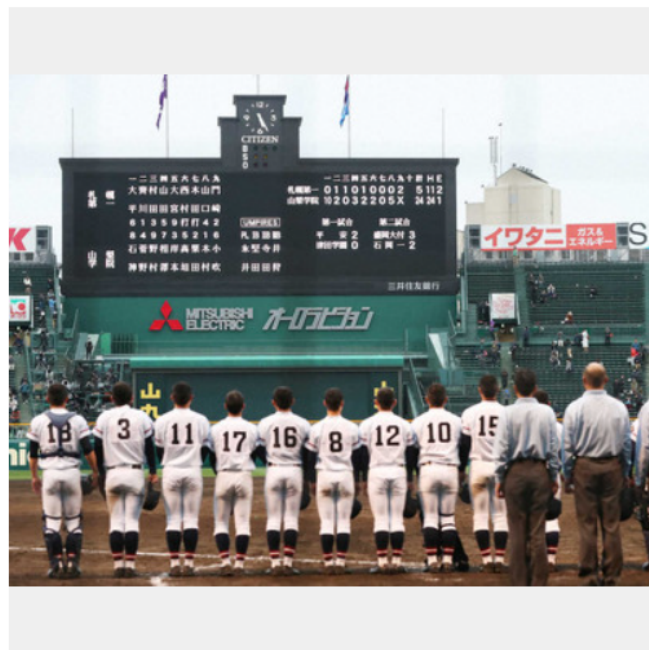


山梨学院・24得点で本塁憤死ゼロ・三塁コーチー上野の準備

3/25(月) 20:38配信

スポニチ
Sponichi Annex



＜山梨学院・札幌第一＞24安打24得点の猛攻で初戦を突破し、校歌を歌う山梨学院ナイン（撮影・北條 貴史）

◇第91回選抜高校野球大会 1回戦 山梨学院
24—5札幌第一（2019年3月25日 甲子園）

山梨学院が記録した大会タイとなる、チーム1試合最多安打「24」で刻んだ県勢春夏最多の「24」得点。この裏には、絶妙な判断の好サポートもあった。背番号「12」の三塁コーチー・上野颯夏（そう、捕手（2年）の“腕（テク）”だ。

この試合、忙しく両腕を回し続け、本塁憤死はなかった。出塁選手を安心させて24回、本塁生還させた男の準備は実に入念だった。

「最近、あらゆる情報がある。まず動画サイトのユーチューブで相手の試合を見ます。各野手の肩をチェックし試合前ノックで再度、肩を確認します。それを頭に入れておきます。仲間に聞かれたら、教えておきます」

まだ2年生だが、昨秋から吉田監督に「状況を考える能力」を評価され、抜てきされた。「うちの全部員の走力、足の速さを頭に入れつつ、試合の流れを見ながら、場面を見ながら、冷静に腕を回しているつもりです」。

土、日の練習で約2時間を要して行うのがコーチーを置いての「走者付きノック」。当然、上野が三塁コーチーズボックスに陣取り、実戦を想定して判断を磨いてきた。

5安打4打点3得点と大活躍した「2番・二塁」菅野秀斗（3年）は「上野の判断をかなり信用していますね」と話す。「（本塁で）アウト気味かなと思っても、盛り上がっている場面では勝負どころでは回したいですね」。山梨学院の「走」を支える「颯夏（そう）」くん。次戦でも猛打だけではなく、背番号「12」の背中が三塁コーチーズボックスでシブく光るはずだ。